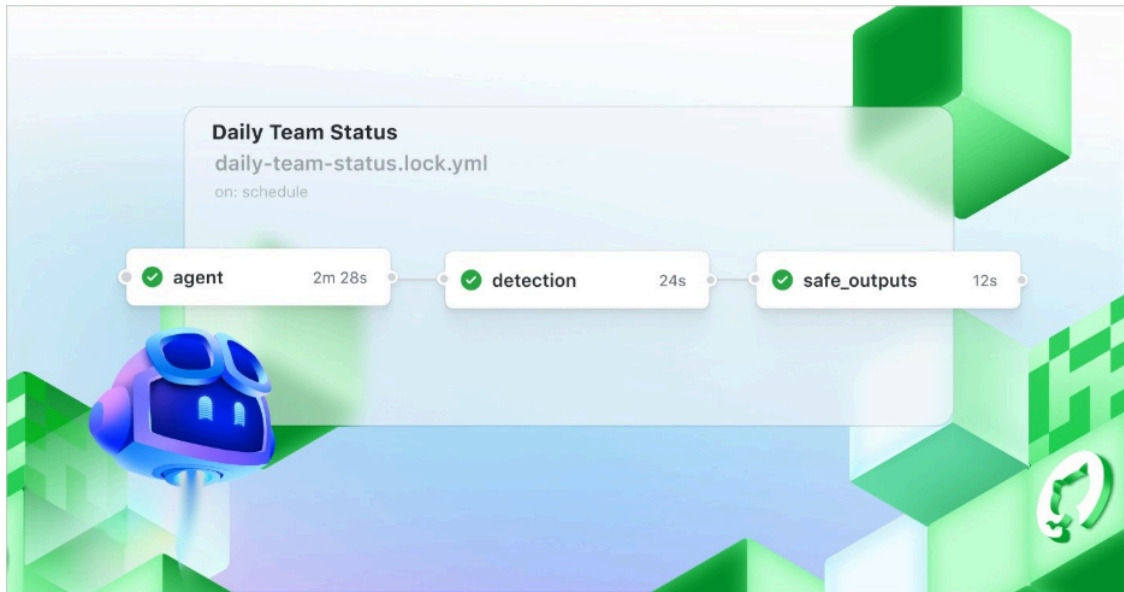


2026年2月16日
GitHub Japan

GitHub、Markdownで目標を記述するだけで自動実行する「GitHub Agentic Workflows」をテクニカルプレビュー公開 GitHub Actions上でコーディングエージェントによるリポジトリ自動化を実現

2026年2月13日（米国時間） - 米国カリフォルニア州サンフランシスコ - AIを活用したエージェント型ソフトウェア開発プラットフォームとして世界をリードする[GitHub](#)は、GitHub Actionsでコーディングエージェントを活用する新機能 [GitHub Agentic Workflows をテクニカルプレビュー](#)として提供開始したことを発表しました。



GitHub Agentic Workflowsは、プレーンなMarkdownで「達成したい目標」を記述するだけで、コーディングエージェントが状況やコンテキスト理解し、自律的に判断しながらGitHub Actions上でタスクを実行する意図駆動型のリポジトリ自動化機能です。これにより、従来の固定的なスクリプトでは対応が難しかった、コンテキスト依存の反復作業を安全かつ継続的に自動化することが可能になります。単一のリポジトリを管理する個人開発者から、大規模なエンタープライズやオープンソースプロジェクトを運営するチームまで、GitHub上で作業するあらゆるユーザーを支援します。

GitHub Nextでは、「AIコーディングエージェントの時代において、安全で信頼できるリポジトリ自動化とは何か」という問いから本機能の検討を開始しました。すでに何百万ものリポジトリで利用されているGitHub Actionsを自動化基盤としてエージェントを組み込むことで、スケーラビリティと制御性を両立しながら、最終的な判断を常に開発者が行える仕組みを実現しています。

Continuous AI: シンプルさが生む自動化の進化

GitHub Agentic Workflowsの中核にある考え方は極めてシンプルです。「達成したい目標」をMarkdownで記述し、それを自動化ワークフローとしてリポジトリに追加することで、GitHub Actions上のコーディングエージェントが実行します。

これにより、最新のコーディングエージェントの高度な機能を、リポジトリ自動化の中核に組み込むことが可能になります。本機能は、GitHub Copilot CLI、AnthropicのClaude、OpenAI Codexなど、複数のコーディングエージェントに対応しています。従来のGitHub Actions YAMLワークフローと並行して利用でき、特に判断力や文脈理解を必要とする反復作業に適しています。また、チームやエンタープライズが必要とする可視性、制御、監査可能性といった重要な要件に対応するため、追加のガードレール、ログ、サンドボックス環境とともに実行されます。

GitHub Agentic Workflowsの活用により、開発者チームがGitHub上ですでに行っている作業に自然に寄り添う形で、新しいカテゴリーのリポジトリ自動化とソフトウェアエンジニアリングが可能になります。その一例として、以下の6つの領域において、従来の固定スクリプトでは表現が難しかった、文脈理解や判断力、そして継続的な反復作業を自動化できます。

1. 継続的トライアージ: [新規Issueの自動要約・ラベル付け・ルーティング](#)
2. 継続的ドキュメント作成: [READMEやドキュメントをコード変更に同期し、最新の状態に維持](#)
3. 継続的コード簡素化: [コード改善点を継続的に特定し、プルリクエストを自動作成](#)
4. 継続的テスト改善: [テストカバレッジを評価し、価値の高いテストを自動追加](#)
5. 継続的品質維持: [CIの失敗の原因を分析し、的確な修正案を提案](#)
6. 継続的レポート生成: [リポジトリの健全性・アクティビティ・トレンドに関する定期レポートを自動生成](#)

GitHubでは、このような継続的なAI活用を [Continuous AI](#) と呼んでいます。これは継続的インテグレーションと継続的デプロイメント(CI/CD)のプラクティスと同様に、AIをソフトウェア開発ライフサイクル(SDLC)へ統合することで、自動化とコラボレーションを強化する新たなアプローチです。

GitHub Agentic WorkflowsとContinuous AIは、既存のCI/CDを置き換えるのではなく、それを拡張するために設計されています。ビルド、テスト、リリースパイプラインを代替するものではなく、そのユースケースは決定論的なCI/CDワークフローとほとんど重複しません。Agentic WorkflowsがGitHub Actionsで実行されるのは、GitHubがサンドボックス環境での実行、権限、ログ取得、監査機能、そして豊富なリポジトリコンテキストを活用できるインフラが提供されているためです。

これにより、チームやエンタープライズにとって、エージェント支援のリポジトリ自動化を通じて、リポジトリをより健全に、管理しやすく、高品質に維持する新しい可能性が広がります。

エンタープライズグレードのガードレールと制御

GitHub Agentic Workflowsは、安全性と制御性を最優先に設計されています。意図しない動作やプロンプトインジェクション攻撃から保護するため、多層防御セキュリティアーキテクチャを実装しています。

ワークフローはデフォルトで読み取り専用権限で実行され、書き込み操作には、サニタイズされた[安全な出力](#)を通じた明示的な承認が必要です。プルリクエスト作成やIssueコメントなどの操作は、レ

ビュー可能なGitHub操作として安全に管理されます。また、サンドボックス環境での実行、ツールの許可リスト化、ネットワーク分離など、多層的なセキュリティアーキテクチャを採用し、意図しない挙動やプロンプトインジェクション攻撃から保護します。

こうしたガードレールにより、エージェントを単発の実験としてではなく、継続的に実行することが実現可能になります。詳細については、[セキュリティアーキテクチャ](#)をご覧ください。

なお、エージェントによるリポジトリ自動化の代替アプローチとして、GitHub CopilotやClaudeなどのコーディングエージェントCLIを、リポジトリへの広範な書き込み権限を持つ標準のGitHub Actions YAMLワークフロー内で直接実行する方法がありますが、権限の粒度が粗くなりやすく、統制が難しくなる可能性があります。GitHub Agentic Workflowsは、デフォルトで読み取り専用アクセスでコーディングエージェントを実行し、GitHub操作には安全な出力に依存するため、より厳密な制約、より明確なレビューポイント、より強力な包括的な制御を提供します。

Agentic Workflows ユーザーの声

すでに複数の企業やオープンソースコミュニティが実環境でAgentic Workflowsの活用を進めており、その効果について具体的な評価が寄せられています。

Carvana エンジニアリング & アナリティクス担当シニアバイスプレジデントの Alex Devkar 氏は次のように述べています。「GitHub Agentic Workflowsを導入したことで、複数のリポジトリにまたがる変更を伴う大規模なエンジニアリング業務へ、エージェントを活用する可能性が広がりました。柔軟性と組み込みのコントロールにより、Carvanaの複雑なシステム全体でAgentic Workflowsを活用できると確信しています」

Home AssistantのプロジェクトリードであるFranck Nijhof 氏は次のように述べています。「Home Assistantには数千件のオープンIssueがあります。何がトレンドになっているか、どの課題が最も多くのユーザーに影響を与えているかを、人間だけで継続的に把握することは困難です。私はIssueを分析し、重要なものを浮き彫りにするためにGitHub Agentic Workflowsを構築しました。これによりメンテナーに本当に価値のある判断力の増幅を実現可能にします」

Cloud Native Computing Foundation (CNCF) CTOであるChris Aniszczyk 氏は次のように述べています。「GitHub Agentic Workflowsを採用することで、AIツールを試す際のハードルが大きく下がり、スタッフ、メンテナー、新規参入者にとってこれまで以上に活用しやすい環境が整いました。CNCF内では、ドキュメント自動化の改善や組織全体のチームレポーティングの改善といった成果を得ていますこれはコミュニティにとって単なる技術的なアップグレードではなく、エコシステムがAIとエージェントツールでより迅速にイノベーションを推進できるようになる文化的変革の一部を成しています」

GitHub Agentic Workflowsが可能にするソフトウェア開発

リポジトリワークフロー自動化をさらに強力にする、[Peli's Agent Factory](#)は、適応、リミックス、リポジトリ間で標準化できる実用的なパターンを含む、幅広いワークフローのガイドツアーを提供しています。

言葉で表現できるリポジトリでの反復作業はAgentic Workflowsに適しています。またデザインパターンについては、[ChatOps](#)、[DailyOps](#)、[DataOps](#)、[IssueOps](#)、[ProjectOps](#)、[MultiRepoOps](#)、[Orchestration](#)をご覧ください。

エージェント支援のリポジトリ自動化の用途は、特定のリポジトリと開発の優先事項によって異なります。チームや会社のソフトウェア開発へのアプローチは、他のチームとは異なるため、独自チームのリポジトリに合わせてエージェント自動化をどのように活用できるか想像力を働かせることが重要です。

チームのための実践的なガイダンス

Agentic Workflowsは発想の転換をもたらします。完璧なプロンプトではなく、目標と望む出力に焦点を当てると、最もうまく機能します。開発者が成功とは何かを明確に定義し、ワークフローがそれを達成する方法を探索できるようにします。いくつかの境界はデフォルトでAgentic Workflowsに組み込まれており、その他の境界は開発者が明示的に定義します。これにより、エージェントは、結果を常に安全で意図する範囲内にとどめつつ、探索し推論することが可能になります。

ワークフローは非常に一般的なもの（「ソフトウェアを改善する」）から非常に具体的なもの（「この教育ソフトウェアのすべての技術ドキュメントとエラーメッセージが10歳以上の聴衆に適したスタイルで書かれていることを確認する」）まで様々です。チームに適した具体性のレベルを選択できます。

GitHub Agentic Workflowsは実行時にコーディングエージェントを使用するため、課金コストが発生する場合があります。デフォルト設定でGitHub Copilotを使用する場合、各ワークフロー実行は通常2つの[プレミアムリクエスト](#)を消費します（1つはエージェント作業用、もう1つは安全な出力のガードレールチェック用）。コスト管理のためにモデルを選択・設定できます。現在、GitHub Copilotの自動化された使用はユーザーアカウントに関連付けられています。他のコーディングエージェントについては、詳細は[ドキュメント](#)をご参照ください。

チームがすぐに価値を得るためのヒント

- プルリクエスト作成を有効にする前に、コメント、ドラフト、レポートなどの**低リスクな出力**から開始する
- コーディングの場合、機能開発ではなく、定期的なリファクタリング、テストカバレッジ、コード簡素化などの**目標指向の改善**から開始する
- レポートの場合、フォーマット、トーン、リンク、いつ停止するかなどについて、「**良い**」とは**何かを具体的に指示**する
- Agentic Workflowsは、エージェントが定義された条件の下で行動するため、自律的に動作するエージェント専用のサブグループを作成する。一方、**人間が**、レポート、Issue、プルリクエストを通じて、リポジトリの進行における**より広いループにとどまる**ことが重要となる。GitHub Agentic Workflowsでは、**プルリクエストは自動的にマージされることはなく**、人間が常にレビューし承認する必要がある
- ワークフローのMarkdownをコードとして扱い、変更をレビューし、小さく保ち、意図的に進化させる

Continuous AIは、CI/CDと併用すると最もうまく機能します。CI/CD用のGitHub Actions YAMLワークフローの代替としてAgentic Workflowsを使用しないでください。このアプローチは、従来のCI/CDでは表現が難しい、より主観的で繰り返しの多いタスクに継続的自動化を拡張します。

GitHub Agentic Workflowsは現在テクニカルプレビューとして利用可能で、GitHub、Microsoft Research、Azure Core Upstreamの協業によって開発されています。詳細は以下を参照ください。

- [ドキュメント](#)
- [仕組み](#)
- [クイックスタートガイド](#)
- [ワークフローギャラリー](#)

GitHub Blog

英語: <https://github.blog/ai-and-ml/automate-repository-tasks-with-github-agentic-workflows/>

日本語:

<https://github.blog/jp/2026-02-16-automate-repository-tasks-with-github-agentic-workflows/>

GitHubに関する情報は、こちらからもご覧いただけます。

Press Release: <https://github.com/newsroom>

Blog: (英語) <https://github.blog> (日本語) <https://github.blog/jp>

X: (英語) @github <https://twitter.com/github>
(日本語) @GitHubJapan <https://twitter.com/githubjapan>

【GitHub について】

GitHubは、世界をリードするエージェント型ソフトウェア開発プラットフォームです。GitHub Copilotを搭載し、安全なソフトウェアの構築、拡張、提供を実現します。グローバル企業の総収入ランキングトップ100の『Fortune 100』に名を連ねる90%以上の企業の開発者を含む1億8,000万人以上が、GitHubを利用し素晴らしい共同作業を行っています。また、7万7,000以上の組織がGitHub Copilotを導入しています。

<https://github.com/about>

<https://github.co.jp> (日本語)

【製品／サービスに関するお問い合わせ先】

ギットハブ・ジャパン営業およびサポート窓口

Email: jp-sales@github.com

【本件に関するお問い合わせ先】

GitHub PR 事務局 (PRAP Japan)

担当: 板東、金

GitHub@prap.co.jp